

2020年1月21日(火)

第四回 国立研究開発法人イノベーション戦略会議

パネルディスカッション 2

**テーマ：グローバルな観点から見た国研の役割について
～「STI for SDGs」を事例にして～**

趣旨説明

中村 道治

国連10人委員会メンバー

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）顧問

SDGサミット政治宣言 「持続可能な開発のための10年分の行動及び実行に向けて」

2019年9月24日

1 我々のコミットメント

- 1 2 0 3 0 年までに共通目標を達成できるように**今後10年間、更に野心的かつ加速された対応を開始する。**
- 1 持続可能な開発の経済・社会・環境的側面のバランスをとりながら、平和で公正かつ包摂的な社会、ジェンダー平等、すべての女性・女児のエンパワーメント、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ、栄養等を実現する。最も脆弱な国々が直面する特有の課題を認識するとともに、特にジェンダー平等及び気候変動や環境保護、防災に関する課題を解決する。
- 1 持続可能な世界を次世代へ受け継ぐため、**すべてのステークホルダーが協力**していく。

2 今日の我々の世界

- 1 極度の貧困や子ども・新生児の死亡率削減、電気と安全な飲料水へのアクセス、陸上及び海洋保護地域の範囲の拡大等複数の分野で進歩を遂げた一方、**貧困、飢餓、ジェンダー平等、貧富の差の拡大、生物多様性の損失、環境の悪化、海洋プラスチックごみ、気候変動、災害リスクの増加**が続いていることに危惧する。
- 1 国際的移住は、出身国、経由国及び目的地の国々の発展にとって重要な現実であり、**暴力的過激主義、テロリズム、腐敗、国際的な健康危機、人道危機や人々の強制的な避難は、ここ数十年の開発の進展の大部分を覆す恐れがある。**
- 1 多くの地域で**紛争と不安定性が継続又は激化し、自然災害がより頻繁かつ激甚化して、SDGsの達成が阻まれている。**

3 行動の加速に向けた呼びかけ

- Ⅰ すべてのレベル及びあらゆるステークホルダーによる**行動を加速する緊急の必要性**を認識する。
 - Ⅰ 国連事務総長に対し，SDGサミットのフォローアップとして，政府，市民社会，民間部門及びその他ステークホルダーの関与のもと，解決策を生み出し，実施における体系的なギャップに対処するための行動を加速させることを要請する。
 - Ⅰ より迅速に，より多くの取組を進める必要があり，
 - a) **誰一人取り残さない**
 - b) **適切かつ的確に管理された資金の動員**
 - c) **国内実施の強化**
 - d) **より統合された解決策のための体制の強化**
 - e) **実施を加速するための地域における取組強化**
 - f) **災害リスクの軽減と強靱性の構築**
 - g) **国際協力とグローバルパートナーシップの強化による課題解決**
 - h) **持続可能な開発のためのデジタル変革に重点を置いた科学技術イノベーション（STI）の活用**
 - i) **SDGsのためのデータと統計への投資**
 - j) **ハイレベル政治フォーラムの強化**
- にコミットする。

持続可能な開発目標（SDGs）実施指針（改訂版） における優先課題

2019年12月20日 SDGs推進本部決定

(People 人間)

あらゆる人々が活躍する社会・ジェンダー平等の実現
健康・長寿の達成

(Prosperity 繁栄)

成長市場の創出、地域活性化、科学技術イノベーション
持続可能で強靱な国土と質の高いインフラの整備

(Planet 地球)

省・再生可能エネルギー、防災・気候変動対策、循環型社会
生物多様性、森林、海洋等の環境保全

(Peace 平和)

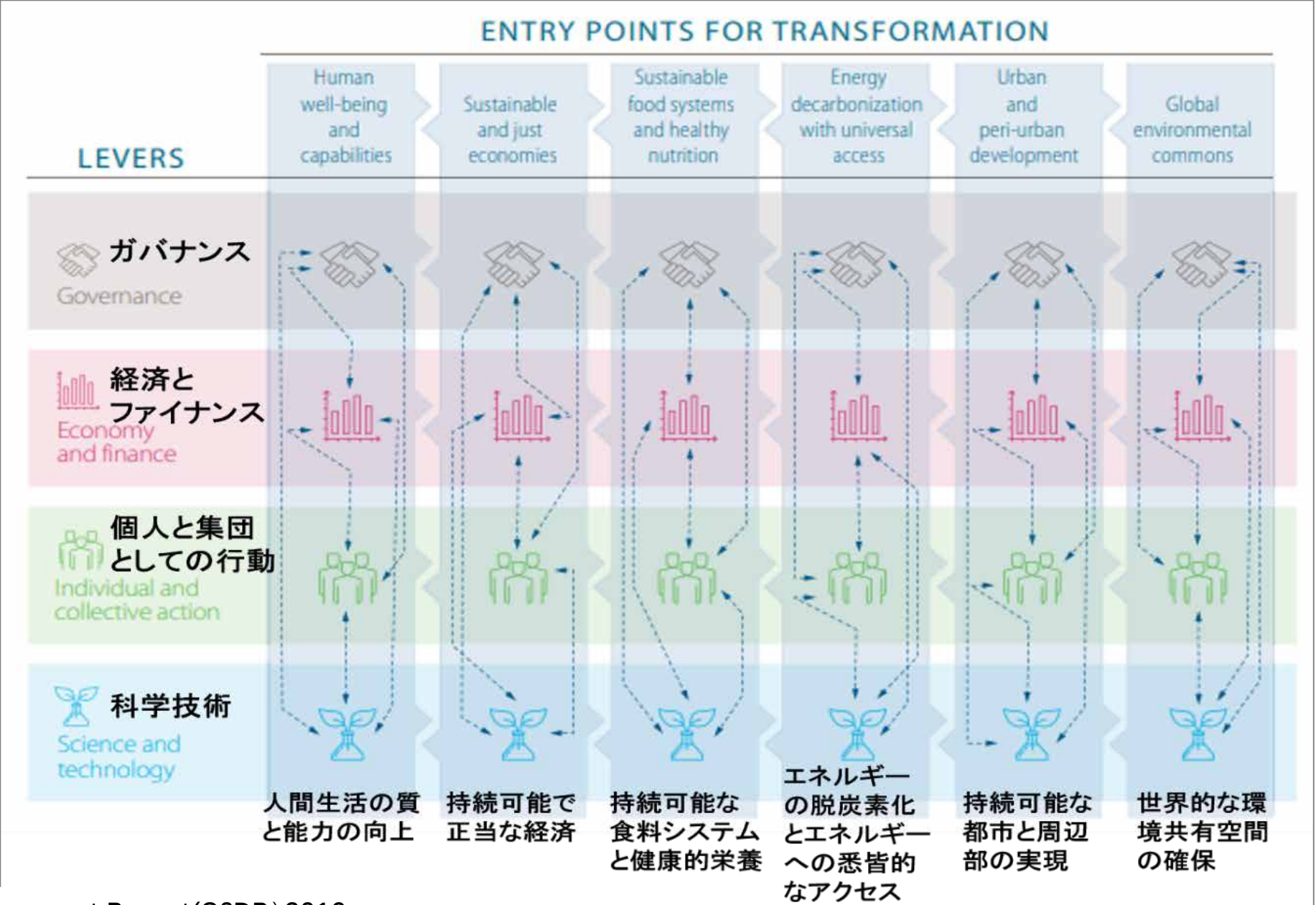
平和と安全・安心社会の実現

(Partnership パートナシップ)

SDGs実施推進の体制と手段

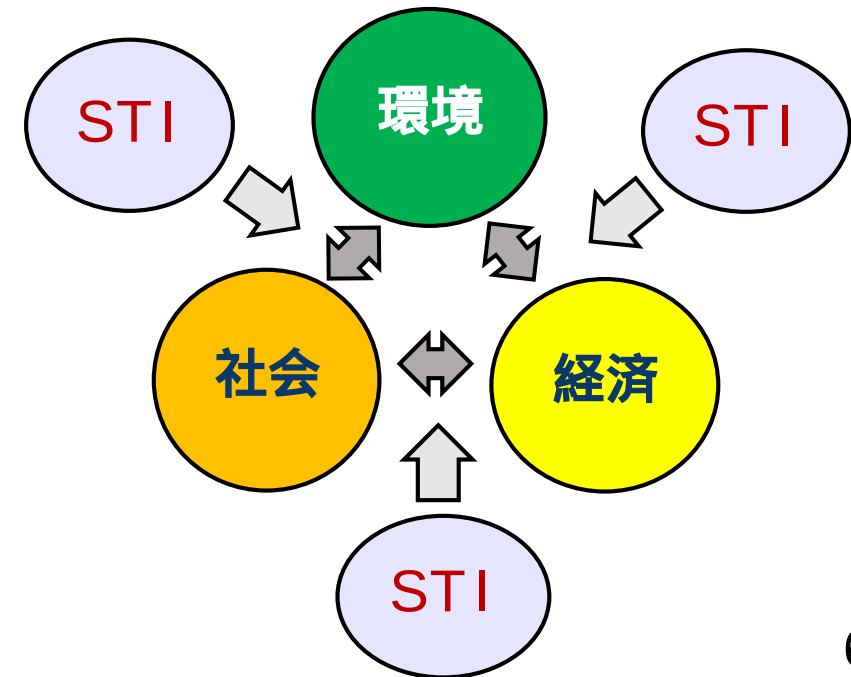
国内実施、国際協力

国連の推奨する「4つの手段」と「変革のための6つの入り口」



SDGsに向けた科学技術イノベーション

- ｜ 経済・社会・環境の3側面を踏まえた課題解決と統合的发展
- ｜ “ボトルネック”、“トレードオフ”の解消に向けた技術面からの貢献
- ｜ ミッション志向型研究開発、オープンイノベーション
- ｜ 先進国との戦略的パートナーシップによる競争優位性の確保
- ｜ 開発途上国の成長戦略支援と新市場開拓



国連STI for SDGsロードマップ・パイロットプログラム

パイロット申請国【2019年4月】

ボツワナ、チャド、エチオピア、ガーナ、ケニア、ルワンダ、南アフリカ、チュニジア、タンザニア、カンボジア、中国、インドネシア、オマーン、ブラジル、メキシコ、グアテマラ、マセドニア、セルビア、日本、韓国、ノルウェー（21カ国）



パイロット国 第1陣【2019年7月～】

ガーナ、ケニア、エチオピア、インド、セルビア

パートナー国

日本、EU；日本はケニア、インド、世銀との連携・支援

（政策形成、農業、製造業、シンクタンク・研修等）

⇒ アフリカ、アジア諸国との連携強化、ネットワーク形成の機会

ディスカッションテーマ

グローバルな観点から見た国研の役割について

- 各法人は、どのような変革を目指して取り組んでいるか？
- SDGs達成に向けて、どのような先端技術に注力しているか（または、注力すべき先端技術は何か）？
- SDGs達成の観点から、どのように国際協力を進めているか（または、進める予定か）？